

第4回網走市選択する未来会議発言要旨（平成28年5月31日（火））

●事務局

（別添資料に基づき地方創生交付金事業及びまち・ひと・しごと創生総合戦略のKPI達成状況について説明。）

<地方創生交付金事業>

○委員

・自分の仕事は農業なので農政課の事業に注目しているが、初めての出席でどうしてもこの目標値になったのかがよくわからないものがある。農政課の事業で地場産品販路拡大・基盤強化事業の中にスマート農業や狩猟免許などは輸出増加に繋がらないのではないかな。

また、小中学校学力対策事業でなぜ算数と数学を目標にしたのかと感じている。結果がどうしたということよりどうしてこの目標になったのかが疑問に思う。

●事務局

・目標値を設定するときに市の職員が農協など関係団体に相談をしております。こういった事業を行うことを考えているがどのような目標がよろしいでしょうかと伺ったところ今、長いもの輸出に力を入れているのでこの目標がいいということになり設定させていただいたもの。小中学校の算数・数学についても同様に網走の弱いということなのでこのKPIとなったものです。

○委員

・会議を進めていく中で新たなKPIを設定するということもあるのか。

●事務局

・現時点では変更等は考えていないが、戦略を進めていく上で目標の達成が困難になった場合などはKPIや戦略の内容についてみなさんと相談しながら適宜改訂していこうと考えております。

○委員

・地盤産品の輸出の内容は全て長いものですか。

●事務局

・全て長いものです。

○委員

・結果の数値だけではなく事業を実施したことによってどれだけ効果があったのかという指標もあると良い。

○委員

- ・機会があれば報告願いたい。

<基本目標1>

○オブザーバー

- ・基本目標の従業員数のデータが経済センサスということになると29年の後はさらに5年後となるのか。その場合は戦略の目標年度である31年度に数値がわからないのではないか。

●事務局

- ・そのとおりです。

○オブザーバー

- ・網走港の活用のところで外貿とあったが、これは石炭など海外からの輸出入のことを表しているのでしょうか。

●事務局

- ・そのとおりです。

○委員

- ・内貿というのは日本国内の貨物の移動、外貿というのは輸出ということですね。
- ・事業所の従業員数はセンサス以外で把握できるものはないのですか。

●事務局

- ・そのとおりです。

○委員

- ・定住する地域おこし協力隊員が0人という結果はどういうことでしょうか。

●事務局

- ・現在の協力隊員の任期が平成27年から29年度のため、定住をはかるのは平成30年度となるためです。

○オブザーバー

- ・今網走には何人の協力隊員がいますか。

●事務局

- ・1名です。

○委員

- ・ 本学のOBです。
- ・ もっと人数は増やしていけばよいと思います。

<基本目標2>

○委員

- ・ 一時期落ち込んでいた観光入込客数が漸増しているのは良い兆候。

○委員

- ・ スポーツ合宿の誘致は夏のスポーツということでしょうか。

●事務局

- ・ 総合戦略そのものが網走の強みをさらに磨きをかけていこうという考え方ですので、おっしゃるように夏場のラグビーですとか陸上が中心となりますが、今後は、2017年に冬期アジア大会が札幌で開催される予定であったり、バイアスロンのような冬季競技、網走には射撃場があってクロスカントリーもできるなど全国にないような施設・設備もありますのでこういう分野にもアプローチしていこうというのがスポーツ課の考えです。

○委員

- ・ どうしても夏だけとなると宿泊場所も限られてくるので冬の合宿誘致も取り組むことで全体の数値も目標に近づくのではないのでしょうか。

●事務局

- ・ おっしゃるとおりだと思いますので、入込の落ちる春、秋は観光客だけではなく東京農大の世田谷や厚木のキャンパスの学生をターゲットとした農業インターンシップなどは春の播種、秋の刈り取りなどに来ていただくような仕組みと作っていきたいと考えています。

○委員

- ・ 新たなスポーツイベントの創出のところ、合宿及びスポーツ・ツーリズム経済波及効果はほぼ目標に近い数値になっているが、一つ上の合宿参加人数はそれほど増えていない。この理由はどのようなもののでしょうか。

●事務局

- ・ スポーツ・ツーリズムの数値にはマラソン大会の数値が含まれているため大きな伸びとなっています。

○委員

- ・ スポーツの合宿参加人数は実数ですか、それとも延べ人数ですか。

●事務局

- ・実数になっています。

<基本目標３>

○委員

- ・出会いの場の創出とは具体的には街コンのようなものでしょうか。

●事務局

- ・市役所が主催した街コンを開催するということではなく、予算化した事業としましてはそういったイベントを企画・開催する団体等に経費の一部を補助するというものです。イベントの内容や補助対象経費などについては色々と相談いただければと思って居ます。

○委員

- ・ではこの会議のメンバーの方々が企画・開催していけば数値も上がるということですね。

●事務局

- ・はい。みなさま是非よろしくお願いします。

○委員

- ・そういうことですので関係者のみなさま是非関心を持って企画していただきたいと思っています。

○オブザーバー

- ・合計特殊出生率がH25は増えて、H26は減り、H27はまた増えているが、この要因などはわかるのか。

●事務局

- ・合計特殊出生率について、健康管理課で押さえている部分については、何が要因となって増減しているかまでは押さえきれていないというのが現状です。本人のご希望によって出産・子育てをするということですので、こちらから何かを積極的に働き掛けるというのも難しいと感じているところです。

○委員

- ・増減の要因は私もよくわかりません。景気の動向など経済的な状況もありますし、若いタレントが子どもを産むということが昔より一般的になっているのでそういう要因もあるかもしれない。

○委員

・色々な要因があると思いますが、一般的には結婚・出生は所得との相関性があり、若い人の所得が下がっているのが大きな要因と言われていますが、日本全体の出生率は微増しており、不思議な感じもある。

○委員

・周産期小児医療について目標は維持されているようですが、自分は昨年まで厚生病院の運営委員をやらせていただいていたしまして、その際に院長さんのお話で、遠軽厚生病院で子どもが産めなくなり、オホーツク管内で子どもが産めるのは網走と北見だけしかありません。実は網走もどうなるかわかりませんと言われました。

詳しい理由はわかりませんが、教授が変わるタイミングで、現在の教授は地域医療に積極的に力をいれてくれていたが、今度の教授は新技術、先進医療に力を入れる教授になりそうだと、その時には網走厚生病院で子どもを産めなくなる可能性があるとのことでした。

安心して子どもを産む環境を維持するということは重要で、人口を維持しようと色々な取組をしても市民が安心して暮らせる子どもを産める環境にないと外から人が入って来ることはないと思いますので今後も力を入れていただきたいと思います。

●事務局

・ご指摘いただいたとおり医療提供体制の充実というのは非常に大切なことだと考えております。周産期・小児科については医師の負担も大きく、医療費の無償化などの議論がされていますが、当市としてはいきなり病院に行くのではなく、まずは24時間対応の相談窓口で電話いただいてそれでも大変な時は医療機関を受診いただくという仕組みですとか救急医療の体制も整えるというところに取り組んでいます。

医師の確保については、非常に大きな課題ですので重点的に取り組んでいくという考えです。

○委員

・地域医療はなかなか見てもらえない、お願いしても来てもらえない部分かなと感じています。産科医は一度医師がいなくなってしまうと、元に戻すというのはかなり難しいのではないかと感じていますので、そうならないように力を入れてほしいと思います。

○委員

・厚生病院などの公的医療機関は行政からの補助金も多く受け取っているが民間の医療機関は補助も何もない中で地域医療を支えている。こうした状況で不採算だから医者はいらないと言ってくる公的医療機関もあると聞いておりめっちゃくちゃなことを言っていると感じる。

どうしても遠軽のように大学の事情により、これも地域医療の観点からは考えられないようなことだと思いますが、大学の事情はよくわかりません。

○委員

・これは1市町村の政策というより道の政策も大きいと思います。根釧地域は産婦人科医療は非常に厳しい状況とも聞いていますが、是非、市の政策、道の政策で医療提供体制を確保して安心して若者が生活できる、子どもを産める体制を整えていただきたいと思います。

○委員

・医療スタッフの確保というのは非常に大変なことで、昔、平成13年に網走市立の准看護学校が閉校となり、それ以降看護師の確保が難しく入院患者を受け入れることができる診療所が大幅に減った。大反対、市に閉校しないようにかけあったが結局だめだった。

このような場が当時あったら頑張って維持していく方向をとってけたのではないかと思います。

○委員

・私も以前、道の高等看護学院の講師を務めていたが、卒業生の多くは札幌や東京に流れてしまうという状況にあった。地域医療をどうするかというところに道の施設においても応えきれていない状況にある。

道や市と連携していかなければならないと感じます。

○委員

・子育てをしやすいと感じる割合の56.4%とはいつの数字なのでしょう。そして5年毎の調査ということですが、次の調査はいつ行われるのでしょうか。

●事務局

・56.4%というのは、平成25年度の調査です。目標の65%は過去の同様の調査で一番大きかった数字であり、そこまで持っていこうとするものです。次回は平成30年度の調査となります。

○委員

・子育てのしやすさというのは定住人口の移動にも影響があり、首都圏でも子育てをしやすい施設があるところに若い世代が移住しているということもあるので、網走市の若者の定着率を上げていくためには施設・環境が重要であると思います。

○オブザーバー

・感染症予防対策の実施で子どもインフルエンザ予防接種率が67.45%で幼児は高いが中学生が低くなっているとの説明でしたが、私が中学生の時も周囲でインフルエンザの予防接種を受けたかという話題になった時にあまりクラスで受けた人がいなかった。中学生はインフルエンザ予防の意識は幼児などに比べると低いのではないかと感じたので、もっと中学生が関心を持つような周知などの取組が必要なのではないかと思います。

●事務局

- ・ご指摘のとおりでございますので、学校や医療機関等と連携を図りまして、周知に努めたいと考えます。

○委員

- ・学校の場合は親の了解を一律に取るということが非常に難しい。権利等の問題もあり、上から一律にという形ではなく、なぜ必要かということの周知を図ることが重要。

○委員

- ・質問というかお願いになるのですが、病後児保育対応保育施設が平成31年度設置予定となっておりますが、北見市でもこの春に病後児保育施設が新築稼働予定であったところ、医師会反対により病後児保育の受入ができないまま保育園の運営がスタートしたと聞いています。偶然、保育所の近くに小児科のクリニックが新設され、そこと連携した形で運営していくと決まっていたところ、細かい理由はわかりませんが、中止となったとのことです。網走ではこういうことがないように市や医師会など関係機関と十分に調整の上お願いしたい。

○委員

- ・病後児保育はとても切実な問題だと思います。札幌でも天使病院など大きなところと連携して行っており、地方都市では難しいところもあると思う。網走で厚生病院にお願いした場合、負担も大きくなると思う。

女医も含めて働く女性の定着に非常に有効であると思います。北見の事例は状況がわからないが、網走の医師会では反対するというようなことはないと思います。

<基本目標4>

○委員

- ・おかげさまで日体大特別支援学校の校舎が先日無事完成し内覧会も行えた。非常に良い施設ができたと自負しています。

スポーツに特化した学校ということで、これから2020年のオリンピック・パラリンピックもあり、日体大としても20以上の市町村とスポーツ関係の連携を行っている。今は、そういったムーブメントの中にあるので、日体大特別支援学校や地域の小中学生と一緒に様々な取組を通じてわくわく感やスポーツへの興味関心が広がることを期待している。

日体大特別支援学校の開校は来年であり、そこから魂を入れることになるが、学校の従業員は半数近くが網走に移住するものと考えられているので人口増、雇用へも貢献できるのではないかと考えている。

●議長

- ・全体を通して何かご意見等がありますか。

○オブザーバー

- ・基本目標3で子育てがしやすいと感じる割合を増やすとあるが、他の市町村では子育てをしやすい環境ということで移住が伸びている例もあるので、どんな施策が必要かということをもっと掘り下げていくべきではないかと考える。

○委員

- ・上士幌町ではふるさと寄附を財源に保育園を無料化するなど子育て支援策を講じた結果、子育て世帯の移住者が増えているという実態もある。上士幌町へのふるさと寄附は15億円、網走市は6億円。こういったところを財源として子育てがしやすい環境を整備するということも大事だと考えている。

●事務局

- ・オブザーバーのご指摘の点も含めて、子育てをしやすい環境で各自治体が悩んでいるのは、財政面で体力のある自治体は良いが、網走のようになかなか厳しい自治体にとってそういった自治体と支援の厚さで競争することは困難というところがあります。

国に対しても国全体として整備すべきものは国の責任で整備していただきたいという要望を行うとともに網走ができる医療、教育、仕事の面で整備して保護者にPRしていくということを皆さんから色々な場面でご意見を伺いながら進めていきたいと考えます。

○オブザーバー

- ・いくつかの市町村で地方創生の会議に出席しているが、国の交付金の検証だけでなく戦略本体のKPIの検証を行っているのは他にない素晴らしいことだと思う。

全体の評価ということは現時点で難しいところがあるが、数値が想定よりも下回っている項目も多くはないのではないかと感じる。

想定よりも下回っている網掛けの部分で市役所として特に危機感を持っている、力を入れていきたいと考えている項目はあるか。

●事務局

- ・加速化交付金を使って今年度事業を行っていこうというのが、中央商店街の活性化という点でまちづくり会社を設立して取り組んでいこうとしています。また、大学と連携した地場産品の高付加価値化ということで、長いものの機能性に着目し、JAオホーツクと農大と連携し地場産品の輸出に取り組んでいるところです。

●議長

- ・他に意見がないようですので終了いたします。事務局から何かあれば。

●事務局

- ・今後のスケジュールについてですが、8月に判明する指標などの数値が揃いましたら、年度内にもう一度開催いたしましてご説明させていただきたいと考えております。また、新年度の取組について、市の政策検討会等で上がってきた内容を、今年度にご説明する

機会がなかったので、29年度予算分についてご説明できればと思っておりますのでよろしく願いいたします。

●議長

・以上を持ちまして第4回選択する未来会議を終了させていただきます。多くのご意見ありがとうございました。また、長時間お疲れ様でした。

～第4回の選択する未来会議終了～